資料　２

本町農業の現状（特徴と資源を含む）と課題

**１　基盤整備部会**

　(1)土づくり対策

　　①現状（特徴と資源を含む）と課題

・営農者に定期的な土壌診断に基づく土づくりが浸透している。

　　・振興センターや普及センターの営農指導が活用されている。

　　・良質で安価な堆肥等有機物の十分な量を確保出来ていない。

　　・堆肥センターは老朽化し、生産量も限界に近い。

　　・客土材（火山灰・砂質土）を活用し、土の保水性・排水性・通気性の改善、生産性の

向上及び農業機械の作業効率の安定した営農を目的とした土層改良

　　・災害復旧事業にて実施した客土材は、十勝川の河川掘削土であることから、土の特徴として水はけが悪い成分となっている

　　・河北地区（特に上関山、北明、平和）では、粘性土が強い

　　・土づくり指導をしている機関との連携が機能していない

・過去に整備されている暗渠排水施設の内、耐用年数が経過している施設の再整備と機能の点検

　　〇芽室町では堆肥センターを設置し有機物の活用に努めている。

〇畑作の基本となる土づくりへの意識は高いが、有畜農家が少ないため必要量を確保できない状況にある。

〇有畜農家の大型化により、高水分の堆厩肥が生産されており利用しずらく、施肥量のコントロールも難しい。

　　○耕作者は土作りに対する意識は高いものの、散布するための機械、貯蔵するための堆肥盤が整備されていない。

　　〇有機物施用量が少ないため、将来的に土壌の物理性、化学性の低下が危惧される。

⦿小麦後作緑肥（特にえん麦野生種）の作付を推進している

⦿土づくりの観点から、平成16年4月から堆肥センターを本格稼動させ、良質な堆肥の製造・供給を行い、年間20千～24千トン供給している。

⦿畑作の基本となる土づくりへの意識が高く、町内の家畜ふん尿を中心に野菜残さ等を原

料とし循環型農業を実践している。

⦿堆肥センターの製造量は限界に達している。良質な有機物不足。

　　⦿省力および高収益作物へ作付が偏重し、地力対策上重要な位置づけとなるてん菜の面　積が減少および土壌病害虫が増加しつつある。

⦿野良いも対策（雪踏み、雪割り）のため小麦後作緑肥の作付が伸び悩んでいる。

⦿気象の変動により集中豪雨等の災害が発生している。

⦿堆肥センターも開設から15年が経過し、施設が老朽化は避けられず、計画外の突発的な故障（修繕）対応などにより修繕費は増加し、収支状況は悪化する傾向にある。

⦿野菜作の増加もあり堆肥投入意欲はあるが、散布機を有する農家がなく、委託も小麦後に集中するため対応できず、散布手段が課題となっている。また、散布手段が改善されても製造能力15千トンを越す20千トン以上の製造しており、製造能力は限界に来ているため、大幅な堆肥投入が困難な状況にある。

　　⦿散布作業集中期の解消に向けて、散布機保有農家への委託を試験的に実施し、将来的な対応を検討している。

⦿将来的に規模拡大、労働力不足が進むほど省力作物への作付が集中する可能性がある

　　②対策の方向性

　　・自然環境に優しい土づくり

　　・健康で安心安全な資源の循環型農業

・道営事業による区画整理の推進

　　・町としての役割を明確にする

　　⦿継続的に堆肥を利用し、土づくりに取り組む意欲的な農業者に対する支援の実施。

　　⦿堆肥センター運営に対する恒久的な支援

⦿労働力確保対策

　　⦿効率的な農機導入に係る事業利用への支援

⦿新たな土地改良事業の誘導（下にあったか！）

　　③振興方策

　　・家畜ふん尿等の町内有機資源の地域内循環

　　・緑肥や堆肥の積極的な適正施用の推進

・土取場確保のための地元との協議、検討。土砂採取後のほ場褶曲の改善

　　・農家、JA、振興センターに任せずに「土づくりとは何か？」を町として考える

　　・農家に指導できるような職員（スペシャリスト）を育成する

　　・堆肥センターの生産量増強

　　・家畜ふん尿等処理と併せた良質で安価な町内産有機物の堆肥提供システムの確立

〇堆肥散布のための作業受委託制度の確立及び、堆肥センターの拡充。

　　④具体的な取り組み

　　・堆肥センターの生産量増強

　　・家畜ふん尿等処理と併せた良質で安価な町内産有機物の堆肥提供システムの確立

・地元からの情報を基にした地質調査

　　・土づくりに関して農家の代表、JA、振興センターを交えて、勉強会を実施

　　・農業部門に関する職員育成制度の確立

(2)土地改良事業

　　①現状（特徴と資源を含む）と課題

　　・農業用水施設の老朽化

　　・干ばつ時の農作物への安定したかん水

　　・ほ場の区画整理による表面水の排水処理、湿害解消のための暗渠排水の流末処理に

伴う明渠排水路の整備

　　　・畑かんの推進が遅れている

　　・土地改良施設の老朽化が進み、将来的に維持管理に多大な労力と経費を要することが予想される。

　　・畑地かんがい用水や営農用水の漏水等が頻発しており早急かつ計画的な対策が必要。

〇十勝川の南北では、土質・気象ともに大きく異なる。特に、山沿いの南側は湿害を受けやすい。

　　〇近年、春先の降雨不足による干ばつのため灌水が必要なほ場も見られる。

　　　〇暗渠・明渠を整備してから年数が経過するため計画的な再整備が必要。

　　　〇春期の風害。

⦿ＪＡ独自に非補助事業として取りまとめをおこない、町内外業者へ作業を委託

⦿客土に利用できる土壌がある

⦿専門的な作業のため委託先が少ない

　　⦿委託先が限定されるため料金が高い

⦿将来的な委託先の確保

　　⦿将来的な作業料金の高騰

　　②対策の方向性

　　・国営事業を活用した機器・施設の更新

　　・道営事業による畑地かんがい用水の推進

　　・道営事業による区画整理の推進

　　・計画的な修繕・更新による用水の安定供給の確保

　　③振興方策

　　・関係機関との協議及び連携強化

　　・明渠排水路敷地確保のための関係機関との協議及び地元の協力

　　・道営事業において明渠排水路または畑かんの単独事業を行う

　　④具体的な取り組み

　　・政党要望を含め、継続した事業要望の提出

　　・頻発する畑地かんがい用水や営農用水の漏水対応として、早急かつ計画的な対策の実施

　　〇基盤整備に対する計画的な施策策定

　　〇美生ダムによる農業用用水のより一層の整備（リールマシン等の導入）。

●本町農業の特徴と資源（強み）

【参考例】

・農業者（生産者・配偶者・後継者）の自主的な研究や取り組みが盛んである。

・畑作の基本となる土づくりへの意識が高く、堆肥や有機を施用した持続的な農業への意識が高い。

・畑作４品での輪作体系を基本に売れる作物への転換や新規作物への挑戦等にも積極的に取り組む攻めの農業経営が多い。

・道普及センターやＪＡ振興センター等が発信する的確な営農情報を活用し、効率的な作業体系を考慮し、適期作業の実施による堅実で適切な営農を実施している

・営農者数の減少等による規模拡大意向が強く、耕作面積の増加と農業雇用労働者の減少により、省力化作物への転換や農業ICTを取り入れた作業体系の見直しによる省力化を積極的に行っている。

・気象情報や先進技術を上手く取り入れて栽培技術向上や省力化を行い、効率的な経営に結び付けている。

・女性農業者の自主的な活動が盛ん。（町内女性農業者が中心となって行う、めむろの恵みフェスタの実施。担い手自主的活動においては例年一定数の農村女性活動グループの参加実績がある。R1…4団体/9団体中、H30…4団体/6団体中、H29…4団体/10団体中）

・農業生産性の向上と経営安定に寄与するため、農地・土地改良施設等の整備が適宜実施されてきた。

・国営事業により、排水路・基幹水利施設・基幹用水路の整備が進み、多くの農業者が恩恵を受けれる環境となっている。

・道営事業により、農地に排水対策、末端用水路の整備が全町的に実施されている。

　また、農村地域を巡回する形で計画的かつ継続的に地区の課題に応じた基盤整備を進めている。

・整備された土地改良施設の維持管理を、多面的機能支払交付金を活用し、各地区環境保全組合と協同して進めている。

・新たに国営事業採択をうけ、美生ダム管理設備更新、小水力発電施設整備を進め、農業用水施設の維持管理費低減を進めている。

・河北地区では、近年の降雨流出増加に対応した排水路再整備に向けた国営事業地区調査が進んでいる。